

当月のS&P MLP 指数の動き

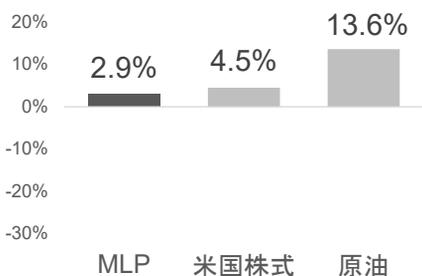
2月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比+4.9%と3か月連続での上昇となりました。

米国株式市場は、米金融政策正常化への警戒感やロシアのウクライナ侵攻などを背景に下落基調となりました。MLPは、中旬にかけて下落する場面もみられたものの、地政学リスクの高まりを受けた供給不安などを背景に原油価格が大きく上昇したことなどが支えとなり、月末にかけて上昇基調を強めました。

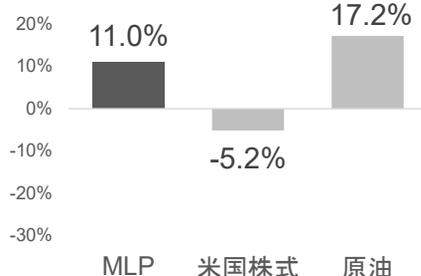
過去3カ月の主要指標の月次騰落率

(米ドルベース、トータルリターン)

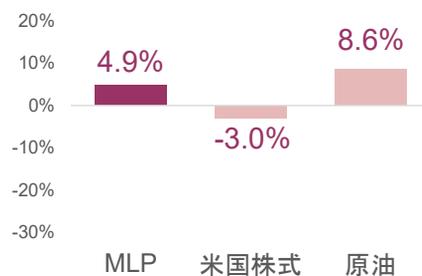
2021年12月



2022年1月



2022年2月



主要指標の動き

MLP:S&P MLP 指数、米国株式:S&P 500 種指数、原油:WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3か月前月末	前年末	前月末比	3か月前月末比	前年末比
	2022/2/28	2022/1/31	2021/11/30	2021/12/31			
S&P MLP 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	5,235.41	4,989.98	4,367.73	4,495.14	4.9%	19.9%	16.5%
プライスリターン	1,225.95	1,179.69	1,041.60	1,071.99	3.9%	17.7%	14.4%
S&P 500種 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	9,186.37	9,469.92	9,558.33	9,986.70	-3.0%	-3.9%	-8.0%
プライスリターン	4,373.94	4,515.55	4,567.00	4,766.18	-3.1%	-4.2%	-8.2%
S&P 500種 エネルギー株指数(米ドルベース)							
トータルリターン	1,107.84	1,034.14	842.34	868.26	7.1%	31.5%	27.6%
プライスリターン	534.95	502.93	410.70	422.74	6.4%	30.3%	26.5%
S&P 米国 REIT 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	1,766.08	1,824.04	1,801.63	1,959.66	-3.2%	-2.0%	-9.9%
プライスリターン	382.90	395.95	393.30	425.81	-3.3%	-2.6%	-10.1%
米国ハイイールド債(ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス(米ドルベース))							
トータルリターン	1,521.60	1,535.39	1,549.64	1,578.79	-0.9%	-1.8%	-3.6%
プライスリターン	73.46	74.48	75.85	76.94	-1.4%	-3.1%	-4.5%
米国10年国債利回り							
	1.82%	1.77%	1.44%	1.51%	0.05	0.38	0.31
原油(WTI) 米ドル/1バレル当たり							
	95.72	88.15	66.18	75.21	8.6%	44.6%	27.3%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり							
	4.40	4.87	4.57	3.73	-9.7%	-3.6%	18.0%
米ドル(対円)							
	115.00	115.11	113.17	115.08	-0.1%	1.6%	-0.1%

※「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

当月の出来事いろいろ

- 2日に開催されたOPEC(石油輸出国機構)と非加盟産油国からなるOPECプラスの会合では、毎月日量40万バレルずつ増産(減産規模を縮小)する現行計画を3月も据え置くことを決定した。ウクライナ情勢を巡る警戒感もあり、原油先物が第1週末にかけて続伸した。
- 11日、ホワイトハウスのサリバン大統領補佐官(国家安全保障担当)は、ロシアによるウクライナ侵攻の脅威が差し迫っているとして、同国に滞在する米国人に48時間以内の退避を促した。米国では、ハイテク株を中心に株価が続落した一方、国債が買われ、10年債利回りは低下したほか、原油先物は急騰した。
- 12日に米口首脳がウクライナ情勢を巡って電話協議を行なったが、平行線を辿った。地政学リスクに加え、米金融引き締めへの警戒感もあり、14日に世界的に株価が下落した。原油先物が続伸し、WTI原油先物価格は1バレル=95米ドル台と、2014年9月以来の高値で引けた。
- 24日、ロシアのプーチン大統領がウクライナ東部への特別軍事作戦を行なうことを決めたと発表し、ウクライナの未明に軍事施設への攻撃が開始された。原油先物は続伸し、一時、北海ブレントで105米ドル台、WTIでも100米ドル台と、それぞれ、2014年8月、同年7月以来の高値をつけた後、上げ幅を縮めて引けた。

今後の注目点

- ウクライナへの侵攻などを背景に、世界有数の産油国であるロシアに厳しい制裁が科され、原油の需給ひっ迫が懸念される中、OPECプラスにおける減産縮小動向や、米国とイランの核合意再建交渉の早期妥結の動向などが注目される。
- 原油価格の高騰などを背景にインフレ圧力が高まる中、金融政策の正常化に向けたFRB(米連邦準備制度理事会)の舵取りが注目される。

原油価格の動向

ロシアのウクライナ侵攻を受けた供給懸念を背景に原油先物価格が高騰しています。特に、2月26日、欧米主要国がロシアの一部銀行をSWIFT(国際決済システム)から切り離すことで合意すると、ロシアからの原油輸入が滞るとの見方などから、北海ブレント、WTIともに上昇基調を強める展開となりました。

＜原油先物価格(1バレル当たり)の推移＞

2006年1月2日～2022年3月2日

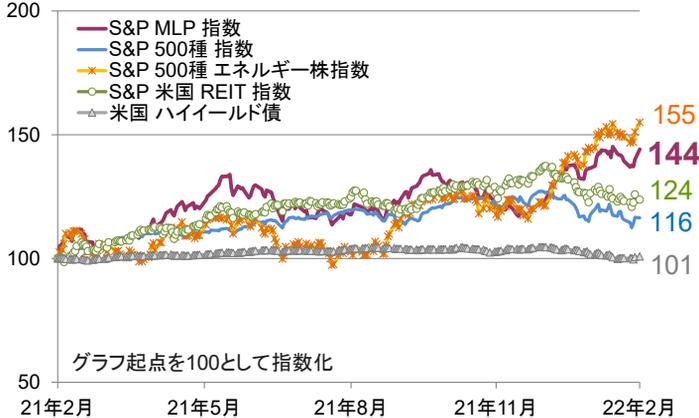


信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

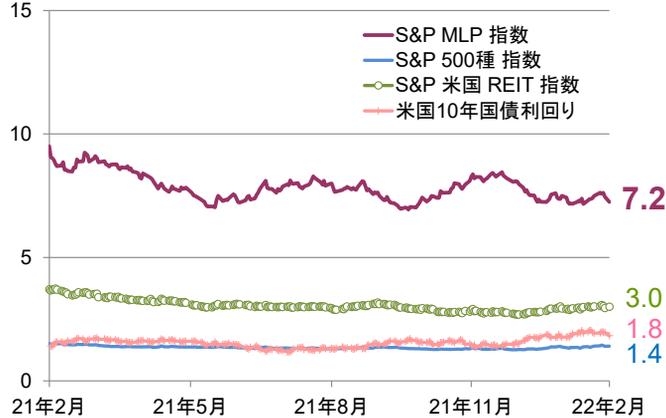
■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)

(2021年2月末～2022年2月末)



■過去1年の各資産の利回り

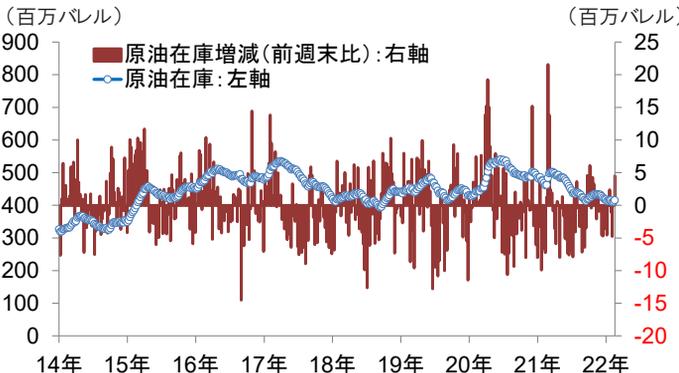
(2021年2月末～2022年2月末)



※各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。
 ※上記利回りは切り捨てにて端数処理しています。
 ※各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

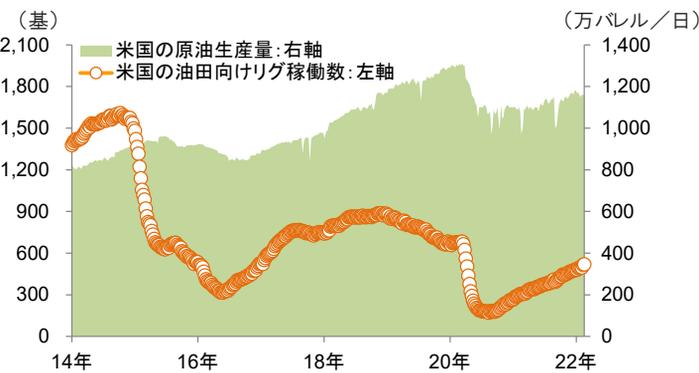
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2022年2月第3週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

(2014年1月第1週末～2022年2月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給緩和懸念(引き締め期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減ると)、需給緩和と懸念(引き締め期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2022年2月28日)



* 米ドル指数は主要通貨に対する米ドルの水準や動きを示す指数です。

原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル安基調が強まる場合、割安感などにより、原油価格に押し上げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)
 ※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。